

# 鳥取 YEG 通信



発行: 令和3年3月15日  
鳥取商工会議所青年部  
広報委員会

鳥取商工会議所青年部通信

# 3

March 2021

## 令和2年度 会長あいさつ



鳥取商工会議所青年部  
会長 荒田潤之介  
株式会社 千代田工務店

日増しに暖かくなり、桜の開花が楽しみな季節となりました。鳥取商工会議所青年部OBが築き上げた、鳥取県立布勢総合運動公園内「桜の園」も、枯れたりするなど千本を切った【因幡千本桜】でしたが、昨年11月に5ヶ年計画最後の植樹を行い千本まで復活しました。今年は、この事業に関わった多くの皆さまの思いが通じ綺麗に咲き誇ってくれることでしょう。

また、未だに新型コロナウイルス感染症の拡大も予断を許さない状況となっております。引き続き気を緩めることなく感染対策をしっかりと行い、助け合いの精神でこの難局を乗り越えましょう。

直近の活動報告として、2月10日(水)に2月例会をハイブリッド形式で開催しました。当月はまち興し委員会が担当として企画、現在復元整備が行われている鳥取城跡の価値や歴史を学ぶ講師例会を開催しました。当日は、鳥取市教育委員会文化財課主任兼文化財専門員 細田隆博様による講演や、完成間近を迎えた大手門のレポート動画を放映するほか、

鳥取YEGが継続して参画しているお城まつりの紹介を行いました。鳥取城跡の歴史への理解を深めながら今後の展望をお聞きしたことで、今後当会としては、鳥取城跡の復元整備や鳥取の一大観光地にしていくための後押しを本格的に取り組みたいと考えています。そして3月13日(土)には、大手門の完成お披露目式と合わせて、第21回鳥取三十二万石お城まつりが開催されました。鳥取城跡も整備が進み、見違えるように綺麗になっております。是非一度、大手門が開門した鳥取城跡に足を運んでいただけたらと思います。

3月5日(金)より2日間、福井県鯖江市にて日本YEG「第40回全国大会」しあわせ福井さばえ大会」が開催されました。今大会は初となるリモート形式で行われ、厳しい状況の中での開催に運営側は、思うように開催できず無念の思いの中、本当にご苦労されたと思います。遠い所からではありますが本当にお疲れ様でした。

いよいよ次年度の組織図も決まり動き始める中で、今年度も残り半月となりました。3月10日(水)には、今年度卒会される皆さまのこれまで会にご尽力していただいたご功績に感謝をすべく3月送り出し例会を開催しました。卒会生の皆さまと活動をさせていただくのも残り少なくなりましたが、残り僅かな時間を大切にししっかりと活動していきたいと思えます。

## 2月例会開催について

2月10日(水)に2月例会を開催しました。今回の例会は、会場参加およびYouTube配信によるリモート参加を併用したハイブリッド形式での開催となりました。

2月例会は「鳥取城跡の利活用」をテーマとし、鳥取城の歴史および復元整備事業の現状について会員が改めて学ぶことを狙いとし、3部構成にて開催しました。

1部として、鳥取市教育委員会文化財課 主任兼文化財専門員の細田隆博様にご来場いただき、「鳥取城跡について知ろう・行こう」と題し、鳥取城の歴史の価値および復元整備事業の歴史と現状についてご講演いただきました。

2部として、現在復元工事が進み3月13日(土)に開門式が予定されている大手門の現状を伝えるべく、事前にまち興し委員会のメンバーが細田様ご協力の下、現場取材を行った動画を放映し、中ノ御門復元工事の進捗状況、工事の難しいポイントなどを臨場感とともに共有しました。

3部として、長年当青年部が運営に参画し、今年度は大手門開門式と同日開催となる第21回鳥取三十二万石お城まつりについての告知コーナーを設け、濱本副委員長が特に若い会員に向けて、お城まつりが鳥取城跡の復元整備事業に果たしてきた役割・開催意義を説明しました。

この例会を契機に会員が鳥取城跡の価値を再認識でき、今後の活用への機運が一層高まったと考えています。

まち興し委員会

委員長 常村 修



講師例会

現役会員インタビュー

★ビジョン推進特別委員会

株式会社ダブルノット

尾崎弘子さん



★ダブルノットはどのような会社なのか？

鳥取には魅力的な特産品や生産物を作っている企業さんがたくさんあるのにそれが販売出来ていない状態を見て、インターネットは幅広い流入があるのではないかと考え、インターネットを活用した事業展開で鳥取を元気にしていきたいと言ったところからネットの店長をやってみようと思ったのがきっかけで、現在ご協力いただいている企業様をパートナー企業とし、一緒になって事業をおこなう事を主旨としています。ホームページやECサイトを作成して終わりではなくサイトのコンサルティングを含めて一緒になって運営していくやり方を行っています。

★最近よく聞かれるECサイトの違い？

ECサイトはインターネット上で商品を販売するWebサイトのことです。ネット上にリアル店舗を構えているようなイメージです。1つ違つのが、全国で生産・販売されている商品が、足を運ばなくても購入できるという所です。

★ECサイトのコロナ前とコロナ禍の反応の違い

自宅に居る事が多くなったことで、インターネットでご購入される方が増えました。外出自粛に伴い、今までインターネットで買っていた物が減ってしまっています。例えば、当社が販売を行っていた「きくらげ」は免疫力が高める食材としてTVで放映されたこともありお客さまからのお問い合わせが増えました。最近では田中農場さんの白ねぎが全国版のニュースで取り上げられ、お問い合わせが増えています。

★ECサイトを導入された企業さんからの反応は？

手軽に始められるがリアル店舗と同じくらい大変。だが可能性はあると思っていただけだと思います。大変な部分は、売れるまでに時間がかかるということ。ECサイトは作ったなら終わりではありません。お店と同じで、店舗を構えただけではお客さまは入ってきませ

ん。サイト(店)の雰囲気作り・販売商品の説明・サービス・広告などさまざまな事を毎日考えて行つてやると人の目に入り立ち寄ってくれる。立ち寄ってくれるまでが1年くらいかかりますので、集客に関してはリアル店舗より大変です。具体的には、毎日商品のブログを執筆したりレビューを添えて投稿しています。可能性はある部分は、全国・全世界の方がターゲットになりえるという所です。店舗は場所が限られますが、インターネット上ならスマホが1台あれば簡単に見る事が出来ます。

★セミナーなど人材教育もされていますが反響はどうですか？

ECに特化した人材教育をコンサルという形で行っています。ECサイトを運営するにも店長さんが必要で、リアル店舗でも、集客はもちろん購入後のアフターフォローも行う必要があります。自社の強みを活かしてどうすればお客様の目にとまるのか？どうすれば購入してくださるのか？を実行に移す考え方をインターネットの目線で育成を行っています。またセミナーでは、第一線で活躍している講師をお招きしてお話をする機会を作っています。

★今後ダブルノットさんどのような展開になっていくのか？

ダブルノットは、インターネットを活用して「鳥取を元気に！企業を元気に！」をモットーに鳥取県の地域産品を県外に販売「地産外販」に取り組んでいます。その1つの手段としてECサイトの運営や支援を行っています。その中で、企業さんとの取り組みと女性の活躍に着目しています。企業さんと連携して、地産外販のしくみづくりを一緒に考えて作っていくことです。ダブルノットの社員は子育て世代の女性が多いです。子育てしながらでも女性は活躍できる事を知ってもらいビジネスを楽しんでもらいたいと思っています。

インタビューー 広報委員会



インタビューの様子

鳥取YEG「ジャンパーデザインコンペ」開催について

鳥取YEG「ジャンパーデザインコンペ」を開催しました。鳥取YEGジャンパーは、私たちが同じ方向を見つめ事業活動する意識の向上のために着用しています。この度のジャンパーデザインコンペは、平成27年の中国ブロック鳥取大会以降会員数が大幅に増加している中、今年度を機にデザインを刷新する目的で開催しました。コンペを行うに当たり、広報委員会のメンバーで選考基準や応募概要をまとめた結果、全会員参加型のデザインコンペを実施する事にしました。選考されたデザインは案としてブラッシュアップを重ねた後、鳥取YEGオリジナルジャンパーを制作するという流れです。

応募されたデザインは、Googleフォームで会員投票を行い数点まで絞り込んだ後、今後5年間使用するにふさわしいデザインか否かを選考基準に基づき選定し、2月例会にて最優秀者1名と入選者3名を表彰しました。

今年度は、コロナ禍での委員会活動となり委員会メンバーともコミュニケーションが取りづらい状況の中、不慣れなりモット会議で案を出し合い協議を重ねた結果、この度のジャンパーデザインコンペ事業を無事に取られた事は私たちに与えて得るものは大きかったと実感しております。いかなる状況下であっても、先を切り開いていく事は個々の事業にも通じるという事を学びました。

広報委員会

委員長 田中 治



最優秀デザイン



入選デザイン②



入選デザイン③



入選デザイン④